

国際会議Environment and Healthにおける アジア室内環境学会ジョイントワークショップに参加して

室内環境学会広報委員会
委員長 水越厚史

2013年8月19～23日にスイスのバーゼルにて国際会議Environment and Health-Bridging South, North, East and Westが開催された。この会議はタイトルの通り、環境と健康に関する3つの学会（ISEE（国際環境疫学学会）、ISES（国際環境曝露学会）、ISIAQ（国際室内空気質学会））が合同で行った初めての会議である。70以上の国から1700名以上の参加者が集まり、3つの学会の垣根を越えた発表が行われ、議論が交わされた。

会議2日目にアジアの室内環境学会のジョイントワークショップ「Air Quality in the Built Environment and Health: an Asian Perspective」が開かれ、韓国、台湾、中国、香港の室内環境学会会長経験者やIndoor Air大会長経験者等による講演が行われた。日本からは、産業技術総合研究所の篠原直秀先生が講演を行った。司会は台湾のHuey-Jen Su先生とスイスのCarl-Gustaf Bornehag先生であった。講演者と講演のタイトルは以下のとおりである。

- ・ 「韓国における室内空気質の規制と政策の現状と今後」 Yoon-Shin Kim先生（韓国）
- ・ 「東日本大震災後の室内環境－私たちの経験と今後の課題」 篠原直秀先生（日本）
- ・ 「室内環境における新たな汚染物質（内分泌かく乱物質（EDCs）や残留性有機汚染物質（POPs）」 Ching-Chang Lee先生（台湾）
- ・ 「中国における室内のVOC/SVOCの曝露と健康リスク」 Yinping Zhang先生（中国）
- ・ 「人口密度の高い香港における室内のつながりと病気の伝播」 Yuguo Li先生（香港）

ミーティングに参加して、アジアの各国の室内環境において今直面している問題について知ることができた。住環境に類似点の多いアジアのなかで、それぞれの国の今の室内環境の問題は、他の国にも共通する問題となる可能性がある。このようなミーティングを通じてアジア各国の情報を共有することは、より良い室内環境の実現するために非常に有意義であると感じた



ワークショップの司会者及び講演者
左からSu先生、Li先生、Lee先生、Spengler先生
Kim先生、篠原先生、Zhang先生、Bornehag先生